

第2学年1組 保健体育学習指導案

令和7年10月22日(水) 5校時
計28名(男子12名 女子16名)
指導者 畑口 大吉
授業場所 体育館

1 単元 球技 ネット型 (バレーボール)

2 目標

- (1) バレーボールの特性や技能の名称や行い方を理解し、ボール操作や用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開している。＜知識及び技能＞
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。＜思考力、判断力、表現力等＞
- (3) バレーボールに積極的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに進んで参加しようとする
こと、仲間の学習を援助しようとする、健康・安全に気を配ることをしている。＜学びに向かう力、人間性等＞

3 指導にあたって

(1) 教材について

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じて作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。小学校では、「ゲーム」と「ボール運動」で簡易化されたゲームでルールを工夫したり、チームの特性に応じた作戦を立てたりして攻防を展開できるようにすることをねらいとした学習に取り組んでいる。中学校では、これらの学習を受けて基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能を用いて仲間と連携しゲームが展開できるようにすることが求められる。

本単元「ネット型：バレーボール」では、コート上でネットを挟んで相対し、身体操作によりボールをつないだり、空いている場所に返球したりしながら、一定の得点に到達することを競う楽しさを味わうことができる単元である。個々の技能が要求されるとともに、空間認知能力も必要となる難しい競技であるため、ボールを落とさずに仲間と繋ぎ、相手に返すためにはボールコントロールが必要になってくる。また、ボールを繋いで得点をするためには、仲間と協力するチームワークも求められる。したがって、集団で課題を達成していく喜びを感じられる単元であると考える。

(2) 生徒について

体育やバレーボールに対するレディネスアンケート

① 体育の授業は好きですか？(選択)

・好き…14人 ・やや好き…9人 ・やや嫌い…2人 ・嫌い…0人

② 体育をしていて、どのようなときに「楽しい」と感じますか？(自由記述)

- ・できないことができるようになったとき。
- ・自分の目標を達成したときや仲間と協力できたとき。
- ・自分が得意なスポーツをしているとき

③ バレーボールは好きですか？（自由記述）

好き	好きではない
・テレビで見ている楽しそうだから ・みんなと協力できるから ・仲間とコミュニケーションをとれるから	・手が痛くなるから ・飛んできたボールに手を出すことが怖いから ・バレーをしたことがなく、難しそうだから

④ これまでバレーボールを授業や部活、クラブ活動などで学んだ事がありますか？（自由記述）

- ・ない… 6 人
- ・小学校の体育の授業でしたことがある… 1 1 人
- ・遊びや休み時間でしたことがある… 6 人
- ・部活動やクラブでしている… 2 人

⑤ バレーボールのルールについて、どのくらい理解していますか？（選択）

- ・自信をもって試合に取り組めるくらい知っている… 6 人
- ・技能の名前を知っている… 2 人
- ・具体的な戦術を知っている… 5 人
- ・まったくわからない… 1 2 人

⑥ バレーボールでできるようになりたいことはどんなことですか？（自由記述）

- ・正確にパスをつなぐこと… 1 3 人
- ・レシーブをして狙ったところにボールを渡したい… 2 人
- ・スパイクで得点を取りたい… 7 人
- ・サーブを打てるようになりたい… 2 人
- ・チームに声をかけられるようになりたい… 1 人

⑦ グループで話し合ったり、作戦を考えたりすることは得意ですか？（選択）

- ・得意… 3 人
- ・やや得意… 9 人
- ・やや苦手… 1 2 人
- ・苦手… 1 人

⑧ バレーボールをするうえで、不安なことや心配なことはありますか？（自由記述）

- ・ミスしたときに責められたり、強い口調で指摘されたりすること
- ・手が痛くなること
- ・負けた原因の押し付け合い
- ・ボールを遠くに飛ばせるか不安

レディネスアンケートの結果より、本学級の生徒は体育の学習に対して約 80% の生徒が好きと回答し、意欲的に学習に取り組んでいる。しかし、できない技能があると後ろ向きになってしまう生徒もいる。

知識・技能に関しては、正確にパスをつなぐ、レシーブをしたいと回答している生徒が 5 割、スパイク等の攻撃に重点を置きたいと回答している生徒が 3 割であった。また、技能のレディネスからも、基本的なボール操作が身につけていない生徒が多く、ラリーを続けることが難しい。

これまでの授業で、自分の動きを客観的にとらえることができない生徒もいたが、タブレットで自分の実技を撮影し見ることで、技能が向上した姿も見られた。また、自分の考えをグループで発信することに難しさを感じている生徒も一定数おり、他者への伝え方に課題を持っている生徒が多くいることが考えられる。

(3) 指導について

①本単元で特に働かせる見方・考え方

- ・効果的なラリーをするための自分の役割やポジションについて理解すること。
- ・ラリー中の仲間の動きに応じて空いている場所をカバーすること。
- ・タブレットを活用し、自分たちの動きを客観的にとらえること。

②単元を通して身に付けさせたい力

- ア オーバーハンドパスやアンダーハンドパスでボールをつないだり、定位置に戻ったりする動きを身につけ、ラリーを続けることができる技能
- イ オーバーハンドパスやアンダーハンドパスのポイントや友達のアドバイスをもとに自己やチームの課題を考え、話し合ったことを伝える力
- ウ バレーボールに積極的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに進んで参加する態度

③手立て

(手立て1) 知識・技能定着のための、毎時間の基礎練習を行う

- ・毎時間の導入場面で、バレーボールのパスの技能が高まるようなウォーミングアップを行う。
- ・安定したボール操作ができるような技能のポイントや生徒の気づきを、ホワイトボードに記入し、確認できるようにする。

(手立て2) タブレットを用いて自分たちの動きの可視化をする

- ・仲間と連携した動きにより、空いている場所をうめ、ラリーを続けたり、空いている場所を攻めたりしている状況を撮影し、全体で共有する。
- ・作戦ボードを活用し、どのようにボール操作したらつながるか、相手のコートに返すことができるのか、動き方を確認する。

(手立て3) 中間評価の活性化のために各グループの状況を把握する

- ・チームの作戦カードに話し合った内容が記入されているかを把握する。考えに深まりが見られないグループに問いかけを行い、支援する。

4 指導計画（9時間扱い 本時は6時間目） ○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価

時	主な学習活動	目指す姿	知	思	態
1	オリエンテーション ・単元で目指す姿や単元の見通しを持つ。 ・ボールに慣れる運動をする。 ・バレーボールのルールを確認する。 ・単元末に行う簡易なゲームを行い、感じたことを書き出す。	・単元の見通しを持ち、繰り返しボールに慣れる運動を行っている。 ・道具の準備や扱い方を学び、安全に使用している。 〈ルールを学ぶ〉 ・バレーボールのルールについて、うなずきながら話を聞いたり、活動の中で発言したりしている。	○ボールになれる運動の様子		◎試合の様子

2 3 4	ボールに慣れる・ルールを学ぶ・動き方を知る ・ボールに慣れる運動や基本技能を練習する。 〈スパイク〉 〈パスの種類〉 オーバーハンドパス アンダーハンドパス 〈動き方〉 連携した動き方ができるようになる。	〈スパイクの感覚をつかむ〉 ・ボールを打つ瞬間まで見る。 ・肘を引く。 ・手のひらでボールをたたく。 〈アンダーハンドパスを覚える〉 ・ボールの落下地点に移動する。 ・腕を固定し、膝の曲げ伸ばしで、ボールをコントロールする。 〈オーバーハンドパスを覚える〉 ・ボールの落下地点に移動する。 ・手の形、肘の角度、ボールを捉える位置に気をつけてボールをとらえる。 ・腕の力だけでなく、膝の屈伸や体幹を利用してボールをコントロールする。 〈動き方を知る〉 ・ラリー中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーしている。 ・ポジションや役割に応じて、ボールを拾ったりつないだり打ち返したりしている。	◎活動の様子	○学習カードの記述内容	
5 6 (本時) 7	ラリーを続けるための作戦を考える ・チームの状況や仲間の習熟度による作戦やポジションを考える。	〈ゲームの中で〉 ・ラリー中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーしている。 〈話し合いの中で〉 ・自分の考えを仲間に伝えている。 ・同じチームの仲間のことを考えた作戦を考えている。 ・個人やチームの課題を発見し、解決するために仲間にアドバイスをしている。	◎活動の様子	◎話し合いの様子、学習カードの記述内容	
8 9	次年度に向けた試合を行う ・4対4の試合を行う。	〈活動の中で〉 ・グループの課題に応じた、ウォーミングアップに取り組んでいる。 〈試合の中で〉 ・ポジションや役割に応じて、ボールを拾ったりつないだり打ち返したりしている。 ・試合に積極的に取り組むとともに、仲間の頑張りを認めている。		○学習カードの記述内容	◎試合の様子

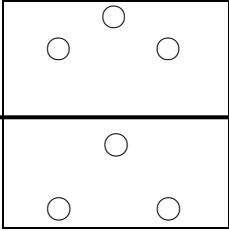
5 本時の学習

(1) 目標

ラリーを続けるための作戦をチームで考え、試合で表現し、作戦の有効性について試している。

【思考力・判断力・表現力等】

(2) 指導過程

学習活動【学習形態】	○目指す生徒の姿	◇手だて ・留意点
1 チームで準備体操と、ボールに慣れる運動をする。【ペア・グループ】	○時間を見て行動し、チームごとに準備運動を進めている。	・前時の振り返りで、チームの課題にあった練習メニューに取り組んでいるか確認する。
2 集合し、挨拶をする。【一斉】		
3 授業の課題を確認する。【一斉】		・ホワイトボードに課題を可視化する。
課題 つなぐボール！ 燃やす心！ ～作り出せ、究極のフォーメーション～		
4 チームでラリーゲームを行う。【グループ】		・試合の仕方を事前に説明し、活動時間を確保する。 ・これまでのチームの課題を確認した上で、ゲームを行う。
 ・男女合わせて6人でチームを作り、3人と3人に分かれる。 ・時間は3分間。ラリーが続いた回数を数える。 ・3回で返球したら、1点追加する。 ・サーブは自コート中央から下投げで行う。		
5 ボールを仲間でつなぐ作戦を考える。【グループ】	○チームの状況を踏まえて考えを交流している。	・チームの仲間の良さを生かすための作戦になるように声をかけ、出た考えや思いを受け入れるように促す。
【中間評価】の場面 〈予想される生徒の反応〉 ・その場にとどまってしまう。 ・ボールが間に来たときにどちらがレシーブするか迷う。 ・自分がどこにいたらいいかわからない。 〈生徒に意識させたいこと〉 ・仲間が動いたら、空いた場所をカバーする。 ・声をかけてどちらがレシーブするか明確にする。 ・自分の役割を再確認する。  〈教師の手立て〉 ◇作戦ボードを活用し、どのように動いたらパスがつながるか、ボールを落とさずに返球できるか動き方やポジションを確認する。 ◇うまくボールがつながっている場面を映像に残し、動き方の確認を行う。 ◇チームの作戦カードに話し合った内容が記入されているかを把握し、考えに深まりが見られないグループに問いかけを行うなど、支援する。		
6 再度ラリーゲームを行う。【グループ】	○チームで話し合ったことを試合に生かそうとしている。	◇まとめの例を共有し学びを深めるために、生徒の振り返りを共有する。
7 本時の振り返りをカードに記入する。【個人・グループ】	○ボールをつないで返球するには、どんな方法があったか、振り返っている。	
〈生徒のまとめの例〉（B評価） ・空いた場所をカバーするように動くパスをつなぐことができた。 ・声をかけて誰がボールをとるといいか確認するとミスが減った。 ・返球するのは苦手だが、レシーブして仲間に繋ぐことが得意なことに気づいた。		

